

食物栄養学科の教育理念・目標と3つのポリシー

大学の教育理念（学則 第1条）	学科の教育研究上の目的（学則 第2条の2(1)）
本学は、教育基本法及び学校教育法の精神にのっとり深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力の向上を図るとともに、高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった、地域社会の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。	食物栄養学科においては、食と健康に関する専門の知識や技術、豊かな感性や社会に奉仕する心を併せ持つ栄養士・栄養教諭並びに関連分野の人材の養成を目的として、栄養指導、給食管理等食物栄養に関する教育及び研究を行う。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【食物栄養学科が育成する人材像】 食物栄養学科では、以下の能力・姿勢を修得し、本学の卒業要件を満たした人に、短期大学士(食物栄養学)の学位を授与します。 【「育成する人材」に必要な力】 <ol style="list-style-type: none"> ① 食の専門職に必要な食と健康に関する専門知識 ② 食の専門職に必要な食と健康に関する専門技術・技法 ③ 食に関する課題の解決策を考案し判断できる能力・表現力 ④ 栄養と健康に関して生涯にわたり学ぶ姿勢 ⑤ 社会的な能力や豊かな感性 	【教育課程編成方針】 食物栄養学科の教育課程は、専門知識や技術を基本から段階的に学べるように配慮しつつ、以下の方針に基づいて編成されています。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会的能力や豊かな人間性の涵養 (2) 食の専門職に必要な専門知識修得のための科目群 (3) 現場に必要なスキルに配慮した専門技術・実践力修得 (4) 食に関する課題の解決策を考案し判断できる能力修得 (5) 「卒業研究」等による生涯にわたり学ぶ姿勢の育成 (6) 栄養教諭免許(2種)及びフードスペシャリスト資格取得 資格に対応した科目群を開設、併せて食関連の視野の拡大や深化を図ります。 【教育課程実施方針(学修過程)】 1年次には、栄養士として必要な基礎調理技術や専門的な基礎知識を中心に修得します。 2年次には、応用的な知識や技術、校外実習などにより実践的な技術および思考力・判断力を修得します。また、卒業研究などを通じた学ぶ姿勢を養うことに重点を置きます。 【学修成果の評価】 各教科目の成績評価は、シラバスにあらかじめ示された評価方法により、学修成果別評価基準(ルーブリック)に沿って、厳正に行うことを基本とします。 学期毎及び累計のGPAを算出し、総合成績評価を行います。	【全体方針】 食物栄養学科では、高齢社会や生活習慣病といった現代の社会問題に対応するために、豊かな感性と社会に奉仕する心、自ら学ぶ意欲、そして健康を科学的に管理する能力をもった栄養士の養成をめざしています。そのため、食べ物と健康、栄養指導、給食の運営等、食品や栄養に関する豊富なカリキュラムを提供しています。 この教育目的・教育方針に基づき、本学科では、次のような人の入学を希望します。 【求める人物像】 <ol style="list-style-type: none"> ①食べ物や食事等食生活に関連する分野について、学ぶ意欲を持つ人 ②生活習慣病等健康と栄養について、関心を持つ人 ③栄養士として社会に貢献したいという意志を持つ人 【高等学校で修得しておいてほしい内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の教育課程を幅広く修得している。 ・国語(現代文)、数学Ⅰ、英語(英語表現Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ)等の基礎的な内容を身につけ、読む、書く、聞く、話すのコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ・化学基礎や生物基礎を履修し、濃度計算などの基本的な計算ができる。 ・各種資格や検定(漢字、英語やPC検定など)の取得や、学校内外での諸活動(ボランティア活動を含む)に積極的に取り組んでいる。
【能力基準別到達目標(学修成果)】	【教育課程実施方針(学修方法)】と【学修成果の評価方法】	【求める資質・能力と入学者選抜における評価方法】
(L01) 知識・理解	【教育内容】 専門科目群(社会生活と健康・人体の構造と機能・食品と衛生・栄養と健康・栄養の指導・給食の運営)により、専門知識を高い水準で網羅的に修得することを図る。 【教育方法・学修方法】 講義形式が主体である。授業においてはアクティブ・ラーニングを極力採り入れ、知識・理解の定着とともに、思考力・判断力をも高める授業を行う。 【学修成果の評価方法】 筆記試験等の客観テストを中心に行う。	【求める資質・能力】 基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、及び主体性や社会性 【入学者選抜における評価方法】 調査書の各記載項目、活動実績書の各項目、面接や小論文、又は筆記試験等の内容を、本学所定の評価基準に基づき、各入試種別の選考方法に応じて、多面的・総合的に評価する。 なお、推薦入試では、上記以外に推薦書(自己推薦書)(本学所定様式)、志望理由書の各項目(本学所定様式)も評価の対象に含める。
(L02) 技能	【教育内容】 調理・給食管理のスキルやコンピュータを活用した献立作成や学外給食施設での給食管理校外実習など、現場に必要な技術や実践力を、実習科目等により幅広く修得することを図る。 【教育方法・学修方法】 演習や実習形式が中心。 【学修成果の評価方法】 レポート、実技試験、プレゼンテーションによる評価を中心に行う。	
(L03) 思考力・判断力・表現力	【教育内容】 専門科目群やその他の科目で、食の専門家の改善事例を学んだり、実習などで様々な改善の必要性を実感し改善を実践することで身に付ける。また、臨床栄養学実習、栄養指導論実習、応用栄養学実習などで栄養指導・栄養管理の実習をしながら、思考力・判断力・表現力を身に付ける。 【教育方法・学修方法】 演習や実習などグループ学習により、他者とのディスカッションやグループワークを通じて、思考・判断や表現力を修得していくことを図る。 講義科目では、判断力を有するケース・スタディや改善事例などを扱う。 【学修成果の評価方法】 レポート、提出課題、成果発表を中心に評価を行う。その他講義科目では論述式試験問題により評価を行う。	
(L04) 関心・意欲・態度	【教育内容】 「卒業研究」及びその他の科目で高度な専門知識に実際に触れたり、修得法を体得することで、生涯にわたり学ぶ姿勢の育成を図る。 【教育方法・学修方法】 課題解決型に学習、及び栄養士関係知識の実社会に向けた高度な内容や、知識の総合化を目指した学習など。 【学修成果の評価方法】 授業態度や成果発表を中心に評価を行う。また、栄養士の総合知識や先進的知識を客観テストで評価する。	
(L05) 人間性・社会性	【教育内容】 教養科目等により、社会で求められる表現力、調整力、実務等の社会的能力育成や、豊かな人間性の涵養を図る。また、校外実習を通して実社会において求められる社会性を身に付ける。 【教育方法・学修方法】 講義による理論の修得と実習による体験型学習を中心に行う。 【学修成果の評価方法】 理論については筆記テストが中心である。実習は、レポートや成果発表を中心に評価を実施する。	

幼児教育学科の教育理念・目標と3つのポリシー

大学の教育理念(学則 第1条)	学科の教育研究上の目的(学則 第2条の2(2))
本学は、教育基本法及び学校教育法の精神にのっとり深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力の向上を図るとともに、高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった、地域社会の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。	幼児教育学科においては、幼児教育と次世代育成支援に関する専門の知識や技術、豊かな感性や子どもへの深い愛情を併せ持つ幼稚園教諭・保育士並びに関連分野の人材の養成を目的として、保育の理念、制度、原理、内容、方法など幼児教育に関する教育及び研究を行う。

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【幼児教育学科が育成する人材像】 幼児教育学科では、本学科がめざす人材像への到達に向けて、以下の学修成果を挙げ、本学の卒業要件を満たした者に、短期大学士(保育学)の学位を授与します。 【めざす人材像】 ① 保育・幼児教育及び子育て支援についての専門的な知識と技能を有する人。 ② 子どもや子どもが育つ環境に高い関心を持ち、論理的に考察するとともに適切に判断し実践する力を有する人。 ③ 信頼関係を基本とする人間関係を構築し、子どもの福祉を守る社会的使命を果たそうとする人。 ④ 子どもに対する深い愛情と豊かな感受性・共感性を備え持つ人。 ⑤ 自らを省察し、他者と協働して保育者としての資質の向上を志向する人。		【教育課程編成方針】 幼児教育学科がめざす人材を育成するために、次の三つの柱を基本に教育課程を編成し、実施します。 (1) 幅広い教養と豊かな人間性を育む教養教育 広く人間や社会、自然について学び、専門教育に備えるとともに、現代社会に必要なコミュニケーション技術を身につけ、健康で豊かな人間性を育みます。 (2) 高度な専門性と実践力を有する保育者養成のための専門教育 ① 保育の本質や目的を理解します。 ② 保育の対象となる子どもや家庭について理解します。 ③ 保育の内容や方法を理解し、保育に必要な表現技術を身につけます。 ④ 保育の実習を通して、保育内容の実践的理解と知識や技能の活用を図ります。 ⑤ 総合演習を通して、保育の課題を探究し、主体的に解決する力を育みます。 (3) 豊かな感性と子どもへの深い愛情を育む全人的教育 体験を通しての気づきを重視した授業内容及び課外活動によって、保育者に必要な感受性・共感性と子どもへの深い愛情を育みます。 【教育課程実施方針(学修過程)】 1年次前期には、①子どもを理解するために必要な専門的知識を習得し、保育の基礎的な表現技術を身につけます。②また、子どもを取りまく社会状況や保育に関する制度等を把握します。③さらに、あらゆる学びを通して、子どもを尊重することの大切さと感性の重要性を理解します。 1年次後期には、①子どもの発達支援に必要な保育技術を身につけます。②また、自らの保育実践をふりかえり改善につなげるPDCAサイクルを理解し、実践します。③さらに、社会におけるコミュニケーションの基本的技術と態度を確認します。 2年次前期には、①5領域を基本とする保育内容の専門的知識を深め、保育を展開する技術を身につけます。②実践的な学びを通して、子どもに対する理解を深めるとともに、応答的に保育を展開する応用力を身につけます。③さらに、現代的な保育課題について情報を収集し、考察を深める能力を身につけます。 2年次後期には、①これまでの保育に関する学びを有機的に関連づけながら、必要な保育実践力について学びを深めます。②また、自らの保育実践を振り返り、子どもに対する深い愛情や豊かな感受性、共感性を確認し、自己課題を明確にします。③さらに、他者と協働しながら課題解決にむけて意欲的に取り組み続ける姿勢を身につけます。 【学修成果の評価】 各教科目の成績評価は、シラバスであらかじめ示された評価方法により、学修成果別評価基準(ルーブリック)に沿って、厳正に行うことを基本とします。学期毎及び累計のGPAを算出し、総合成績評価を行います。	【全体方針】 幼児教育学科では、子どもの発達援助や保護者の子育て支援に必要な知識と技術を学ぶとともに、その基礎となる優れた感性と子どもへの深い愛情という豊かな人間性を備えた保育専門職の養成をめざしています。 この教育目的・教育方針に基づき、本学科では、次のような人の入学を希望します。 【求める人物像】 ①子どもの心を理解する感性を磨き、子どもへの愛情を豊かにしようとする人 ②子どもの発達援助や保護者の子育て支援等に、強い意欲を持つ人 ③子どもや保護者を取り巻く社会環境のあり方や変化に、高い関心を持つ人 【高等学校で修得しておいてほしい内容】 ・高等学校の教育課程を幅広く修得している。 ・国語(現代文)、英語(英語表現Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ)等の基礎的な内容を身につけ、読む、書く、聞く、話すのコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ・「体育」・「芸術」などの表現技能や「家庭」などの生活に必要な基礎的な技能の向上を図る努力をしている。 ・各種資格や検定(漢字、英語やPC検定など)の取得や、学校内外での諸活動(ボランティア活動を含む)に積極的に取り組んでいる。
【能力基準別到達目標(学修成果)】		【教育課程実施方針(学修方法)】と【学修成果の評価方法】	
(L01) 知識・理解	保育の本質と目的を理解し、子どもや家庭、保育の内容や方法についての専門的知識を身につけている。	【教育内容】 主として「保育の本質・目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブ・ラーニングを採り入れる。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。	
(L02) 技能	子どもの発達支援に必要な、保育展開のための技術、教材活用のための技術、環境構成のための技術、および家庭支援に必要な技術を身につけている。	【教育内容】 主として「基礎演習」「保育の表現技術」「保育の内容・方法」科目群により、保育者として必要な専門的スキル・表現技能の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 実技演習、成果発表の練習、制作により専門的スキル・表現技能の獲得を図る。 【学修成果の評価方法】 実技試験、作品、プレゼンテーション、レポート。	
(L03) 思考力・判断力・表現力	学修した知識・技術を総合して、保育・子育て支援の実践的な展開や課題の解決を図ることができる。	【教育内容】 ①主として「保育の実習」「保育の内容・方法」「総合演習」を通して保育内容の実践的理解と専門的知識・技能の活用を図る。 ②専門科目全体を通して保育者として必要な思考力・判断力・表現力を養成する。 【教育方法・学修方法】 グループワーク、ディスカッション、実習、実習指導を通して思考力・判断力・表現力を養成する。 【学修成果の評価方法】 レポート、試験、作品、プレゼンテーション、実習日誌、実習先の評価。	
(L04) 関心・意欲・態度	保育者としての責任感・使命感に基づき、自らを省察し、主体的に学びを深めることができる。	【教育内容】 ①教育課程全体を通して、子どもや子育てに関する関心を高め、主体的に学び続ける力を養う。 ②教育課程全体を通して、保育者の責任感と使命感を育む。 【教育方法・学修方法】 課題レポート作成、実習、実習指導を通して主体的に学び続ける力を養う。 【学修成果の評価方法】 課題レポート、試験、受講態度、実習日誌、実習先の評価。	
(L05) 人間性・社会性	①社会の一員としての自覚を持ち、他者を尊重し、協力・協働を図ることができる。 ②深い愛情と豊かな感受性・共感性をもって子どもに対応することができる。	【教育内容】 学外での活動や体験を重視した教育課程全般によって、他者との適切なコミュニケーション技術と協働性、子どもへの深い愛情と豊かな感受性・共感性を養成する。 【教育方法・学修方法】 グループワーク、協働作業による制作、プレゼンテーションに向けての練習、学外における活動を通して、コミュニケーション技術、協働性、深い愛情、豊かな感受性・共感性を育む。 【学修成果の評価方法】 作品、プレゼンテーション。	
【求める資質・能力】 基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、及び主体性や社会性		【求める資質・能力と入学者選抜における評価方法】	
【入学者選抜における評価方法】 調査書の各記載項目、活動実績書の各項目、面接や小論文、又は筆記試験等の内容を、本学所定の評価基準に基づき、各入試種別の選考方法に応じて、多面的・総合的に評価する。 なお、推薦入試では、上記以外に推薦書(自己推薦書)(本学所定様式)、志望理由書の各項目(本学所定様式)も評価の対象に含める。		【求める資質・能力と入学者選抜における評価方法】	

経営情報学科の教育理念・目標と3つのポリシー

大学の教育理念 (学則 第1条)		学科の教育研究上の目的 (学則 第2条の2(3))			
<p>本学は、教育基本法及び学校教育法の精神にのっとり深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力の向上を図るとともに、高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった、地域社会の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。</p>		<p>経営情報学科においては、自ら学び、考え、実践する能力と健康で豊かな人間性を備え、ビジネス実務に関する実践的な知識・技能と幅広い教養を活かして地域社会の発展に貢献する職業人の育成を目的として、経済・経営・会計、情報、ビジネス実務などに関する教育及び研究を行う。</p>			
ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー		アドミッション・ポリシー	
<p>【経営情報学科が育成する人材像】</p> <p>経営情報学科では、十分な学修成果を挙げて、本学科が育成する人材に必要な以下の力を身につけ、本学の卒業要件を満たした者に短期大学士(経営情報学)の学位を授与します。</p> <p>【「育成する人材」に必要な力】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 健康で豊かな人間性と真摯な人間関係力・協働力 ② 社会常識・マナーをわきまえた、責任ある行動力 ③ 自ら主体的に学び、考え、実践する能力と、学び続ける姿勢 ④ 経済・経営、簿記・会計、情報、ビジネス実務等の実践的知識・技能と実践力 		<p>【教育課程編成方針】</p> <p>経営情報学科が目指す人材を育成するために、次の3分野の教育を体系的・系統的に編成し実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 幅広い教養と健康で豊かな人間性を育む教養教育 (2) 実践知・資格取得のための専門教育 <ol style="list-style-type: none"> ①経済・経営リテラシー・専門基礎教育、②簿記・会計リテラシー・専門基礎教育、③ICTリテラシー・専門基礎教育 (3) 主体的かつ自立的なキャリア形成・発達を支援する「三位一体のキャリア教育」 <ol style="list-style-type: none"> ① ビジネス実務教育、② キャリア教育、③ インターンシップ <p>【教育課程実施方針(学修過程)】</p> <p>2年間を通じて、上記の3分野の教育を体系的・系統的に実施します。特に、1年次には、資格取得と「三位一体のキャリア教育」を重点的に実施し、就業力を高めます。また、2年次には、専門基礎知識ならびに上級資格の取得と、豊かな人間性・社会性を高める教育を重点的に実施します。</p> <p>【学修成果の評価】</p> <p>各教科目の成績評価は、シラバスにあらかじめ示された評価方法により、学修成果別評価基準(ルーブリック)に沿って、厳正に行うことを基本とします。学期毎及び累計のGPAを算出し、総合成績評価を行います。</p>		<p>【全体方針】</p> <p>経営情報学科では、少子高齢化と人口減少、情報化とグローバル化が急速に進展し、常に変化が求められる時代に対応して、ビジネス社会や地域社会の発展を支える職業人の育成をめざしています。そのために、経済・経営、簿記・会計から情報・コンピュータ、ビジネス実務関連等、幅広い分野にわたるカリキュラムを提供しています。この教育目的・教育方針に基づき、本学科では、次のような人の入学を希望します。</p> <p>【求める人物像】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人の気持ちを思いやり、社会の一員としての責任を自覚して、自立を志す人。 ②身につけた知識・技能を地域・社会で活かし、自ら成長することをめざす人。 ③広く世界に関心を持ち、旺盛な学習意欲と自ら学び考え続ける姿勢を持つ人。 <p>【高等学校で修得しておいてほしい内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の教育課程を幅広く修得している。 ・1年次に学習する国語総合(現代文)、数学Ⅰ、数学A、英語(英語表現Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅰ)などは、基本的な内容を身につけている。 ・読む、書く、聞く、話すのコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ・簿記・会計検定試験、PC検定試験、情報処理検定試験、漢字や英語検定試験等、各種検定・資格の取得や、学校内外での諸活動(ボランティア活動を含む)に積極的に取り組んでいる。 	
【能力基準別到達目標(学修成果)】		【教育課程実施方針(教育内容・方法)と学修成果の評価方法】		【求める資質・能力と入学者選抜における評価方法】	
(L01) 知識・理解	<p>社会人としての常識・マナーをわきまえ、ビジネスの現場等実社会で生きていく上で必要となる、専門分野での実践的な知識を身につけている。</p>	<p>【教育内容】</p> <p>教育課程全体を通じて、職業人としてビジネスの現場で必要となる「経済・経営」、「簿記・会計」、「ICT」、「ビジネス実務」分野における実践的な専門基礎知識・理解の獲得を図る。</p> <p>【教育方法・学修方法】</p> <p>講義形式が主体である授業においても、反転授業やクリックラー利用型のアクティブ・ラーニングを積極的に採り入れ、知識・理解の定着とともに、思考力・判断力をも高める授業を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>筆記試験等の客観テストで評価する。</p>		<p>【求める資質・能力】</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、及び主体性や社会性</p> <p>【入学者選抜における評価方法】</p> <p>調査書の各記載項目、活動実績書の各項目、面接や小論文、又は筆記試験等の内容を、本学所定の評価基準に基づき、各入試種別の選考方法に応じて、多面的・総合的に評価する。</p> <p>なお、推薦入試では、上記以外に推薦書(自己推薦書)(本学所定様式)、志望理由書の各項目(本学所定様式)も評価の対象に含める。</p>	
(L02) 技能	<p>ビジネスの現場で必要とされる専門技能・資格や、自らの思考・判断のプロセスを明確に伝えるための技能・表現技法等を身に付けている。</p>	<p>【教育内容】</p> <p>教育課程全体を通じて、情+報リテラシーとコミュニケーション・スキルの育成を目指す。特に、教養・専門演習では、レポート作成スキルやプレゼンテーション・スキル等の表現技法を育成する。また、ビジネスの現場で必要となる日商簿記検定資格・日商PC検定資格や図書館司書等の資格取得を目指す。</p> <p>【教育方法・学修方法】</p> <p>主に演習形式の授業で実施し、反転授業等のアクティブ・ラーニングやピア・アセスメント等による「振り返りによる気づき」の喚起を促す。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>筆記試験等の客観テスト及びレポートやプレゼンテーションはルーブリックで評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。</p>			
(L03) 思考力・判断力・表現力	<p>専門分野における実践的な知識・技能や研究方法を用いて、社会や組織の諸課題を自ら発見し、論理的に分析・考察し、課題解決のためのアイデアを構想し表現することができる。</p>	<p>【教育内容】</p> <p>教育課程全体を通して、獲得した知識・技能を応用して分析・思考・判断する力を育む。特に、卒論の作成に当たっては、クリティカル・シンキング力を育成する。</p> <p>【教育方法・学修方法】</p> <p>ディスカッション、グループワーク、ピア・インストラクション、ピア・アセスメント等を通じて、他者の考えを鏡とし、自らの思考・判断を振り返る。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>記述式・小論文テスト、プレゼンテーション・論文のルーブリックで評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。</p>			
(L04) 関心・意欲・態度	<p>社会・組織における諸課題の解決に向けて、自らの感情や行動を律しながら主体的に学び続けることを通じて、社会人・職業人としての資質・能力の向上に努めることができる。</p>	<p>【教育内容】</p> <p>教育課程全体を通して、社会での出来事と自らの立場・役割・人生との関連性を考えると共に、主体的な学習態度を養う。特に、教養・専門演習では、自らのテーマについて計画的かつ粘り強く調査・分析する力を養う。</p> <p>【教育方法・学修方法】</p> <p>課題解決型学習の導入を図るとともに、共に教え合い学び合う環境作りと、毎回の授業アンケート結果のフィードバックにより、主体的学びへのモチベーションを高める。また、良い質問の仕方を指導する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>授業外学習時間、予習・復習の実績、受講態度等を評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。その他、インターンシップでは受入先の評価も加味する。</p>			
(L05) 人間性・社会性	<p>社会・組織の一員として、独善に陥らず、多様な価値を尊重し、人の気持ちを思いやり、仲間と協力・協働して目標の実現に貢献し、社会人・職業人としての責任を果たすことができる。</p>	<p>【教育内容】</p> <p>「三位一体のキャリア教育」、各種授業でのグループワーク、教養・専門演習を通じて、コミュニケーション能力や協調性・協働力を育む。</p> <p>【教育方法・学修方法】</p> <p>グループワーク、ディスカッション、インターンシップ等の経験を積み重ねることでコミュニケーション能力や協調性・協働力を高める。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>ルーブリックで評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。その他、インターンシップでは受入先の評価も加味する。</p>			

福祉学科の教育理念・目標と3つのポリシー

大学の教育理念（学則 第1条）		学科の教育研究上の目的（学則 第2条の2(1)）		
本学は、教育基本法及び学校教育法の精神にのっとり深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力の向上を図るとともに、高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった、地域社会の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。		福祉学科においては、高齢者や障害者の尊厳とその人らしい自立生活を支援するために必要な専門の知識や技術、倫理を併せ持つ介護福祉士並びに関連分野の人材の養成を目的として、社会福祉、生活福祉、介護福祉等福祉・介護に関する教育及び研究を行う。		
ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー		アドミッション・ポリシー
【福祉学科が育成する人材像】 福祉学科では、本学科が育成する人材像の到達に向けて以下の学修成果に達し、本学の卒業要件を満たした者に短期大学士（介護福祉学）の学位を授与します。		【教育課程編成方針】 福祉学科が目指す人材像を育成するために、次の3つの分野の教育を編成し実施します。 (1) 介護福祉士養成に必要な専門教育 介護実践の基盤となる教養と倫理的態度を学ぶ「人間と社会の理解に関する領域」、介護実践に関する専門的技術・知識を学ぶ「介護領域」、多職種協働や介護実践の根拠を学ぶ「こころとからだのしくみに関する領域」の3領域と「医療的ケア」の学びで育成します。 (2) 福祉・介護に関連する幅広い教育 福祉の理念を幅広く学ぶとともに、福祉・介護に関連する分野で活躍できるレクリエーションインストラクターや介護予防運動スペシャリスト、医療事務・介護事務等、多様な資格取得をめざします。 (3) 人間性豊かな人材を育成する教育 人間らしい生き方や幸せとは何かについて幅広い観点から学び、学生主体のボランティア活動を通して、健康で豊かな人間性を育くみます。		【全体方針】 福祉学科では、今日の社会から求められている高齢者・障害者の介護や家族への介護指導並びに相談援助を担う資質の高い介護福祉士をはじめ、社会で広く活躍できる人材を養成することをめざしています。そのため、社会のあり方や人間理解、介護に関する考え方や相談援助のしかた、そして福祉の基本理念などを広く専門的に学びます。 この教育目的・教育方針に基づき、本学科では、次のような人の入学を希望します。
【「育成する人材」に必要な力】 ① 人間の幸せ、社会のあり方に理解を深め、さまざまな人とコミュニケーションを取ることができる力 ② 福祉に関するさまざまな分野で、修得した専門的知識・技術を活用し、自己研鑽を続けていくことができる力 ③ 高い知性と広い教養を持ち、地域社会の発展に貢献できる力		【教育課程実施方針（教育内容・方法）と学修成果の評価方法】 2年間にわたり、上記の教育を体系的・系統的に実施します。1年次は一般教養と介護の基礎を、2年次は専門教育と資格取得を重点的にこなします。 【学修成果の評価】 シラバスで示す評価方法により、学修成果別評価基準を用いておこないます。学期毎及び累計のGPAを算出し、総合成績評価を行います。		【求める人物像】 ① 人の幸せや社会のあり方に深く興味を示し、その人らしい生き方を大事にしようとする人 ② 高齢者や障害がある人の生活を支える福祉・介護に関わる仕事に関心を持つ人 ③ 明朗快活で、心豊かに成長することをめざす人
【能力基準別到達目標（学修成果）】		【教育課程実施方針（教育内容・方法）と学修成果の評価方法】		【求める資質・能力と入学選抜における評価方法】
(L01) 知識・理解	人間の多様な価値観、社会のしくみ、文化など、幅広い教養を身につけている。また、福祉の基本理念、介護福祉、相談援助、福祉ビジネスなどに関する基礎的な知識を身につけている。	【教育内容】 教養科目群による幅広い教養や一般常識、専門科目群による介護福祉ならびに相談援助や福祉ビジネスにおける知識の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 講義科目と演習・実習科目ともに視覚教材の有効活用やアクティブラーニングの導入により、学生の興味関心を高めながら知識と理解の向上につなげる。 【学修成果の評価方法】 筆記試験やレポートなどで評価		【求める資質・能力】 基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、及び主体性や社会性 【入学選抜における評価方法】 調査書の各記載項目、活動実績書の各項目、面接や小論文、又は筆記試験等の内容を、本学所定の評価基準に基づき、各入試種別の選考方法に応じて、多面的・総合的に評価する。 なお、推薦入試では、上記以外に推薦書（自己推薦書）（本学所定様式）、志望理由書の各項目（本学所定様式）も評価の対象に含める。
(L02) 技能	人間の尊厳とその人らしい自立した生活を支援するために必要な介護の技術・技能を身につけている。また、相談援助分野や福祉ビジネス分野に求められる基礎的な技能を身につけている。	【教育内容】 講義に連動した演習や実習の科目で、学修段階に応じた技能の修得を目指す。また「教養演習」において表現技法の修得や伝達能力・文書作成力などの向上を目指す。 【教育方法・学修方法】 少人数での演習や実習形式の授業に重きを置く。情報処理や文書作成などの学修に取り組むなかで、パソコン操作の習熟を目指す。 【学修成果の評価方法】 演習による到達度の確認や、外部指導者などによる評価		
(L03) 思考力・判断力・表現力	福祉分野の諸課題に対し、研究方法を用いて考察することができる。また、介護福祉分野や相談援助分野、福祉ビジネス分野で有効な思考・判断・表現の能力を身につけている。	【教育内容】 「総合的研究」を必修科目とし、研究の手法やマナーの基本を習得する。その他の授業でも可能な限りアクティブラーニングを取り入れて、思考力・判断力・表現力を高める。 【教育方法・学修方法】 グループワーク、プレゼンテーション、その他の手法を用いて、自らの思考・判断を表現するとともに、他者の意見を参考に自分の思考を拡げる機会を持つ。 【学修成果の評価方法】 成果物の発表、意見発表、レポートや研究論文などを評価。		
(L04) 関心・意欲・態度	現代社会の動向に関心を向けることができる。自分で課題に取り組む力を身につけている。社会人、職業人として求められる自己効力感や自己肯定感を持つことができる。	【教育内容】 社会の動きや福祉問題への関心を高める。また、関連領域の基礎的な学修を早くから取り入れ、主体的に学ぶ態度を養う。 【教育方法・学習方法】 課題や目標に、自分の力で計画的に取り組ませる。全体の中で評価をおこない、自信につなげる。 【学修成果の評価方法】 課題の取り組み状況、受講態度、実習等の受入先の評価など。		
(L05) 社会性・人間性	他者に共感でき、多様な価値観を受容する姿勢を身につけている。また、社会のルールの下、他者と協調、協働して行動することができる。	【教育内容】 介護実習やインターンシップ、授業でのグループワークなどを通じて、多様性の理解や共感する心を育む。また、ボランティア活動を通じて思いやりの心や社会貢献活動の意義を学ぶ。 【教育方法・学習方法】 課外活動の積極的展開と振り返りの実施。実習やインターンシップでの指導など。 【学習成果の評価方法】 外部からの評価も取り入れながら、自己評価の内容も加味して評価。		

専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー

大学の教育理念（学則 第1条）	学科の教育研究上の目的（学則 第39条第2項）
本学は、教育基本法及び学校教育法の精神にのっとり深く専門の学芸を教授研究し、職業又は実生活に必要な能力の向上を図るとともに、高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった、地域社会の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。	専攻科食物栄養専攻においては、健康と食生活に関する高度な専門の知識や技術、総合的な判断力や豊かな人間性を併せ持つ管理栄養士をめざす人材の養成を目的として、栄養指導、栄養管理等に関する教育及び研究を行う。

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【専攻科食物栄養専攻が育成する人材像】 専攻科食物栄養専攻では、短期大学卒等の栄養士を対象に、管理栄養士育成と学士(栄養学)取得をめざし、以下の能力を修得し、本学学則に定める修了要件を満たした者に、専攻科修了を認定します。		【教育課程編成方針】 専攻科食物栄養専攻の教育課程は、栄養士免許取得者が学修を積み上げて、管理栄養士に必要な専門知識・技術を修得し、(独)大学改革支援・学位授与機構からの学士の取得が円滑に進むよう、以下の方針に基づいて編成されています。	
【「育成する人材」に必要な力】 ① 栄養と健康に関する高度な専門知識・理解力 ② 栄養管理の現場に即した技術・実践力 ③ 栄養状態の分析力と栄養管理計画の立案能力 ④ 問題を創造的に解決する能力 ⑤ 高い職業倫理と全人的な総合力		(1) 高度で網羅的な専門知識・理解力修得のための科目 栄養管理・栄養指導のための高度な専門知識と理解力を修得するために必要な科目を、幅広く設置し、深く学んで修得します。 (2) 臨地実習など技術・実践力修得の科目を設置 臨地実習(病院・保健所)等で、栄養サポートチームの一員としての役割の果たし方を含め、現場で役立つ高度な技術・実践力の修得を図ります。 (3) 栄養状態の分析・把握と栄養管理計画の立案能力修得のための科目 栄養状態や病態の分析・把握から、どのような栄養管理が必要かを判断する方法、そして適切な栄養管理の計画の立案とその評価法まで学びます。 (4) 「特別研究」等による創造的問題解決力の育成 「特別研究」等の科目で研究方法や知識の活用法を学び、問題を発見し創造的に解決する能力を修得し、地域貢献可能な人材育成を図ります。 (5) 関連科目群により全人的な総合力を育成 上記科目の他、関連科目群に総合短期大学の特長を活かして社会や人間理解を深める科目を配置し、全人的能力育成を図ります。	
【能力基準別到達目標(学修成果)】		【教育課程実施方針(学修方法)】と【学修成果の評価方法】	
(L01) 知識・理解	個人や集団に適切に栄養管理や栄養指導を行うための高度な専門知識と理解力を修得している。	【教育内容】 主として知識・理解を養う科目には、専門科目A群【講義科目】の「栄養に関する総合的な科目」3科目、「人体の仕組みに関する科目」5科目、「食物に関する科目」3科目、「臨床栄養に関する科目」2科目、「公衆栄養に関する科目」2科目、「保健衛生に関する科目」3科目、「栄養指導に関する科目」3科目および関連科目8科目の計29科目がある。 【教育方法・学修方法】 講義形式が主体である。ただし、どの科目においても、アクティブラーニングを導入し、学生が主体的に学ぶように工夫をし、学生自身が考え、理解する力を養う。 【学修成果の評価方法】 主に筆記試験による客観テスト。	
(L02) 技能	高度な知識を基に、職務を遂行するための技術・実践力を修得している。	【教育内容】 主として技能・技法を養う科目には、専門科目B群【実験・実習科目】の「栄養に関する演習・実験・実習科目」8科目がある。 【教育方法・学修方法】 演習、実習、実験を通して、専門的技術・技術の習得を目指す。 【学修成果の評価方法】 技術試験および筆記試験による客観テスト。	
(L03) 思考力・判断力・表現力	栄養状態や病態を分析・把握し、適切な栄養管理計画が立案できる。	【教育内容】 思考力、判断力、表現力を養う科目には、専門科目A群【講義科目】、専門科目B群【実験・実習科目】、および関連科目のすべての科目が対象であり、どの科目においても、学生自らが思考、判断、表現が必要となる。 【教育方法・学修方法】 講義、演習、実験、実習の多様な形態で、アクティブラーニングを導入し、学生が主体的に学べるようにする。 【学修成果の評価方法】 技術試験および筆記試験による客観テスト、またはレポートによる評価。	
(L04) 関心・意欲・態度	自然および人間社会の現象に関心があり、意欲的に行動ができ、真摯な態度をもっている。	【教育内容】 関心・意欲・態度を養う科目には、専門科目B群【実験・実習科目】の「栄養に関する演習・実験・実習科目」8科目および関連科目の「特別研究」がある。その他にも、学生評価の高い科目「臨床医学Ⅱ」「食品学特論」「臨床心理学特論」などが該当する。 【教育方法・学修方法】 体験学習を主体とする演習・実験・実習により、学生が主体的に学べるようにする。また、講義でも様々な教育手法を導入して学生の関心、意欲、態度を養う努力をする。 【学修成果の評価方法】 技術試験および筆記試験による客観テスト、またはレポートによる評価。	
(L05) 人間性・社会性	栄養管理の専門職に相応しい全人的な総合力が備わっている。また、積極的に社会貢献することができる。	【教育内容】 全人的な総合力を育成するために必要な人間性・社会性を養う科目には、関連科目7科目および専門科目B群【実験・実習科目】の「栄養に関する演習・実験・実習科目」8科目がある。 【教育方法・学修方法】 体験学習を主体とする演習・実験・実習により、学生が主体的に学べるようにする。 【学修成果の評価方法】 技術試験および筆記試験による客観テスト、またはレポートによる評価。	
【求める人物像】 ・栄養指導をはじめ食に関連する分野について、深く学ぶ意欲を持つ人 ・栄養に関する疾患の予防・治療について、関心を持つ人 ・管理栄養士をめざして学ぼうとする強い意志を持つ人		【求める資質・能力】 栄養士としての基本的な技能・技法、思考力、判断力、表現力、他の職種スタッフと協調・協力して責務の遂行に努める意欲・姿勢 【入学者選抜における評価方法】 ・出身学校の成績証明書の各項目と成績のGPA ・志望理由書の各項目 ・口頭試問試験及び面接 の内容を、本学所定の評価基準に基づき、多面的・総合的に評価する。	
【全体方針】 専攻科食物栄養専攻では、健康における栄養問題を解決する能力、地域社会の健康維持・増進に貢献できる実践的な能力、疾病予防・治療のための栄養指導ができる能力を備えた管理栄養士の養成をめざしています。そのため、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など、多くの専門科目を有する豊富なカリキュラムを提供しています。 この教育目的・教育方針に基づき、専攻科では、次のような人の入学を希望します。		【入学前に修得しておいてほしい内容】 ・短期大学修了程度の基礎学力を修得している。 ・教養科目の他に、栄養系の基礎及び応用専門科目を履修し、栄養士としての基本的な技能・技法を修得している。 ・栄養士免許を取得している(取得見込も含む)。	